

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670102500号
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホームはるかぜ西陵
所在地	鹿児島県鹿児島市西陵5丁目12-4 (電話) 099-282-2497
自己評価作成日	平成24年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近所にスーパーや薬局、銀行など利便性があり、また、幹線道路沿いで通学路でもあるため朝・夕の子供たちが登校する元気な様子が見られる。また、利用者を人生の先輩として尊敬し、また、時には家族のように接し、利用者が安心し、明るくはりのある生活を送ることが出来るように支援を行っている。また、利用者中心のケアに力をいれ、利用者の「できること」を伸ばし、一緒に家事参加やレクリエーションなどを行い、利用者の「できることを」一つでも多く見つけていくことに力を入れている。

地域との交流にも力を入れており、運動会や文化祭見学、子供みこしやおはら祭りではホームの前で止まっていたき、踊っていただいたりと、地域の方々にもいろいろなご協力をいただいている。また、近隣に関連施設が三件あり、緊急時の対応や交流、また、入居希望者の紹介など協力体制が密にとれている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市南部の団地に位置し、近隣にはスーパー・公園・学校・クリニック・金融機関などの社会資源も多く、恵まれた環境に建てられている事業所である。幹線道路沿いで通学路でもあるため、リビングの大きな窓からは、子どもたちが元気に登下校する姿が見られ、車や人の往来を眺めているだけでも季節感や生活感がある。

法人は母体である医療機関と介護老人保健施設の他に、居宅介護支援事業所と8か所のグループホームを鹿児島市内で運営しており、長年、地域の医療と高齢者福祉の一端を担ってきている。また、定期的にグループホームの管理者会も行われており、情報交換や勉強会などで互いに切磋琢磨しながら質の向上に取り組んでいる。

開設して13年が経つ事業所であるが、当初からの職員も多く、現時点での新入職員でも既に1年が経過しており、利用者とのなじみの関係が築かれている。また、現在、介護福祉士7名・准看護師1名・介護支援専門員2名と知識と経験の豊富な職員が多数確保されており、質の高いサービスの提供にも繋がっている。

職員は利用者の自立を妨げない支援と利用者が明るく楽しく常に笑ってしてくれるようなホームになるような雰囲気作りに心がけており「職員が明るく安心である」と複数の家族からの評価も得られている。

日常の業務がマンネリ化することなく、今後も更に個々の思いや出来ることを見つけ出して個別支援に力を入れていきたいとの管理者・職員の意欲も伺われた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員で作り上げた理念の中に地域の中で支えていくとの文言があり、全職員が利用者が安心して生活できるよう支援していくことを念頭に置いている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。アセスメントの際に理念に沿っているか検討したり、職員会議時に確認するなどして理念の共有と実践に繋げている。理念はパンフレットにも明記して玄関ホール・事務室・エレベーター内に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ参加しており、夏祭りへの参加、中学校の運動会や文化祭見学、また、ピアノ演奏のボランティア受け入れなど行っている。	町内会に加入し、管理者が総会に出席するなどして交流に努めている。利用者も中学校の運動会・校区の文化祭見学に出かけたり、おはら祭りの際は地域の踊り連がホーム前でも披露してくれている。また、中学生・高校生の体験学習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通して、認知症の勉強会や実際に行っている支援方法などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や町内会役員、地域包括支援センター等の方々に参加していただき、認知症についての勉強会や、評価への取り組みや現況の報告、また、意見交換の場を設けサービスの向上につなげている。	運営推進会議は2カ月に1回、町内会役員・民生委員・家族・地域包括支援センター職員等の参加を得て定期的に開催している。ホームの現況報告・行事報告等を行って災害対策なども話し合われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議への参加や運営推進会議の地域包括支援センターへの参加を通して実情の報告や入居者の紹介の連絡などを実施している。	地域包括支援センター職員に運営推進会議に出席してもらい、ホームの実情や取り組みを伝えている。他にも介護相談員の受け入れや市職員が高齢のお祝いを届けに訪れることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束委員会を行い、身体拘束に当たる行為などの研修を行っている。また、身体拘束を行う際の三原則や弊害などの研修を行っている。	運営規定・契約書に、ホームの方針を明記して拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的な勉強会と業務の中でも言葉による拘束など気づいたら都度話し合う機会を設け、禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解できるように周知徹底している。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を送れるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に当たる行為やその弊害についての研修を行い、虐待防止に努めている。また、スタッフ同士で話し合い、介護の方法や声かけが虐待にあたっていないか話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者自身が研修会や書籍等で権利擁護に関する制度について勉強を行っている。これから職員への研修などを通して、制度利用の希望があれば活用していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の際は、利用者や家族の方に十分な説明を行っている。また、不安や疑問点などがありましたら、いつでもお聞きくださいと声かけを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、家族の面会の機会にご意見を伺ったり、忘年会の後に家族会を開き意見交換を実施している。また、家族アンケートを実施し、意見の把握に努めている。	忘年会を兼ねた家族会時や日常の面会時、電話連絡時に意見・要望を聞き出すように努めている。出された意見・要望については職員間で話し合って運営に反映させている。また、重要事項説明書に行政機関と第三者委員（家族代表・地域住民）も明記して外部者へ表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに意見交換の場を設けている。また、管理者が職員より意見や提案を受け、代表者へ報告し運営の反映につなげている。	毎朝夕の申し送り時や毎月のミーティング時に意見交換や話し合いを行っている。出された意見・提案については可能な限り業務に反映できるようにし、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会へ参加した職員への賞与査定や資格手当など各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修費用の法人負担など研修参加を支援しているが、職員の研修参加が少ないため、職員の研修参加の意欲を引き出す働きかけを行っていききたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会へ参加し交流を行っている、又行政の主催する研修会への参加や法人内での交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく傾聴することによりご本人の気持ちを引き出すように努めている。また、他利用者との橋渡しを行うことで、周りの利用者との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を傾聴し、利用者にとってどんな生活が望ましいかを一緒に考えている。また、いつでもどんな意見でも気軽に相談してくださいと伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、他の介護保険サービスなどの施設の紹介や連絡も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が利用者を家族のように考え支援している。また、調理や家事参加などを一緒に行うことにより、共に支えあう関係作りに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や毎月のお便りに、本人の最近の様子などを伝え、一緒に外出する機会などを設けていただいたりご家族と一緒にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も本人のお友達や知人の訪問があり、交流の支援を行っている。	会話の中から思いを聞き出して家族の協力をもらいながらなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。友人・知人の訪問については訪ねやすい雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にテレビを見られたり、談話されたりと利用者同士の関係性が築けている。また、交流が難しい方へは、職員が橋渡しとなり関係性の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了時に、いつでも相談に来てくださいますとお伝えし、相談があれば応じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や性格などの情報収集はもちろんのこと、毎日のケアの中で本人の気持をお聞きしている。また、困難な方は、表情などを読み取り、本人本位に検討している。	職員は日々の関わりの中で利用者へ寄り添いコミュニケーションを図って思いや意向を聞き出すようにしている。意思疎通の困難な場合は表情・言動、家族からの情報などから把握に努め、時には職員からの投げかけで意思確認を行うこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後もご本人やご家族などから情報をいただき、これまでの生活の状況の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の一日の過ごし方を職員は把握し、その人らしく生活ができるように支援している。また、毎朝のバイタルチェック時に心身状態の把握も一緒に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員にチームアセスメント表を配布し、介護計画の評価や課題についての意見をもらい、本人や家族の要望を取り入れながら現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意見や希望を聞いて利用者の自立を妨げない生活支援や本人の楽しみごとなど個別性のある介護計画を作成している。毎月、ケア会議を行っており、変化が見られれば随時見直しを行い、変化がなくても定期的（6カ月）に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。また、組織活性化の手法を導入したことで以前より細かい気づきが出来ようになり、見直しに活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に気づいたことなどを記入、また、連絡ノートへ気づいたことなどを記入し情報の共有を行っている。また、毎月末に実施記録を点検し、変化への対応へのアイディアなどが反映されるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容の活用やフットケアの活用、マッサージの活用など、本人や家族の意向を伺い対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーの紹介などにより車椅子の方でも家族との外出が楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に納得が得られたかかりつけ医と連携をとり、また、その他の医療機関とも連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診に家族が連れていく際はホームでの状態を記録した書式を作成して持たせている。また利用者ごとに「緊急時の対応（医療体制）について」各科のかかりつけ医を明記した同意書を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である田上記念病院の看護師へ相談し、助言をいただいている。また、夜間や休日などは医師とのホットラインがあり、すぐに対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、入院の経過や本人の状態などをお伝えしている。また、可能ならば、早期退院にむけて病院関係者と相談、連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等により医療管理等が必要となった場合は、事業所で出来ることを十分に説明し、家族や医師と相談し、本人の希望を尊重した上で、家族、医師、看護師と連携をとり支援に取り組んでいる。	入居時にホームの方針を口頭で説明している。入居後は利用者の身体状況に応じて医師の指示のもと、家族と方向性を話し合っってホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法や連絡先などのフローチャートを作成し、緊急時の対応方法の研修を行っている。しかし、初期対応の訓練を現在実施できていないためこれから実施したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間帯を想定し年2回の避難訓練を行い、全職員が避難方法などしっかりと身につけている。また、周りの施設とも協力体制を築いている。	年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。道路をはさんだ同法人の施設と隣接の施設合計4か所と協力関係が築かれており、緊急連絡網の手順等も話し合われている。自動通報システム、スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に心がけている。	プライドを損なわないように個々に応じた声かけに配慮して接することを心がけている。また、ミーティングなどでも話し合うことがあり、職員の資質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に思いや希望を伝えられる関係性を築いている。また、利用者の思いを聴き、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、レクリエーションへの参加など一人ひとりのペースを大切に希望にそった生活の支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪、ひげ剃り、散髪、衣服の選択など本人の希望に応じた支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや味見などの家事参加や台拭き、お盆ふきなど一人ひとりの好みや力を活かしながら支援を行っている。	昔ながらの料理のアドバイスをもらったり、出来ることは手伝ってもらいながら支援している。時には外食に出かけることもあり、事前にメニューをもらって利用者を選んでもらっている。また、気候のいい時期は弁当持参で遠足や花見に出かけ、誕生日の手作りケーキや忘年会には鍋を家族と共に楽しむなど「食」が楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量について記入することで、健康状態の把握が出来るようにしている。また、その方の状態や力に応じて食事形態を変えるなどの支援が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。また、一人ひとりの力や状態に応じて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間の間隔をみて声掛けし、トイレで排泄していただくようにしている。また、本人の希望や様子に応じて排泄介助を実施している。	個々の排せつパターンを把握するため、排せつチェック表を作成してトイレでの排せつや自立に向けた支援を行っている。また、立位が困難な利用者でも2名介助でトイレでの排せつを支援している。現在、自立している利用者が半数近くおり、維持できるように職員はさりげない声かけや誘導を行って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等水分接種や運動の声掛け、腹部マッサージ等を実施している。毎日記録を取ることで、下剤などにより排便のコントロールを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が好きな方が多くゆっくりと湯船につかられている。また、一番風呂が好きな方やその他希望に応じて入浴の支援を行っている。	基本的には週3回であるが回数や順番等利用者の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。自立している利用者もおり、職員の見守りで安心して安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の状況に応じて休息の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが一人ひとりの処方薬についてしっかり確認するようにしている。また、処方薬の追加や変更があった場合は日誌へ添付し確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で出来るレクリエーションだけではなく、家事参加や読書、裁縫など一人ひとりの生活歴や力を活かし、張り合いのある生活をおくれるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりその日の希望にそった外出は少し不十分であるが、時々職員と一緒に買い物に出かけたりしている。また、家族と一緒に外出されたり、季節に応じて外出活動を実施している。	日常的には散歩や買い物などに出かけ、時には、外出レクとして水族館・弁当持参で季節の花見・そーめん流し・初詣、地域行事（運動会・文化祭・夏祭り）見学に出かけるなど外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分でお金の管理が出来る方には自分で管理していただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば電話が出来るように支援している。また、暑中お見舞いや年賀状など季節ごとにはがきを出したりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとに玄関や廊下などに花や飾り付けを行っている。また、トイレなど汚染がある場合随時掃除を行い。温度計や湿度計を確認し過ごしやすい空間作りに心がけている。</p>	<p>共用空間は広く和室もある。道路に面して窓が大きく設けられているため、窓際の椅子に腰かけて子どもたちの登下校の様子や車や人の往来を眺めているだけでも季節感や生活感がある。台所もオープンで食事の準備やにおいなどで五感を刺激してくれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間の中に畳スペースやテレビの前にはソファを設置し利用者が思い思いに過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、本人や家族に相談しながら馴染みのある小物やソファの設置、ご家族の写真などを飾り本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	テレビ・タンス・ソファとテーブル・家族の写真・お気に入りの飾り物などが持ち込まれ、それぞれに居心地良く過ごせるような居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場の入り口に大きく名前を張り出している。また、歩行が不安定な方には洗面所前に椅子を置き安全に整容できるようにしている。	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない